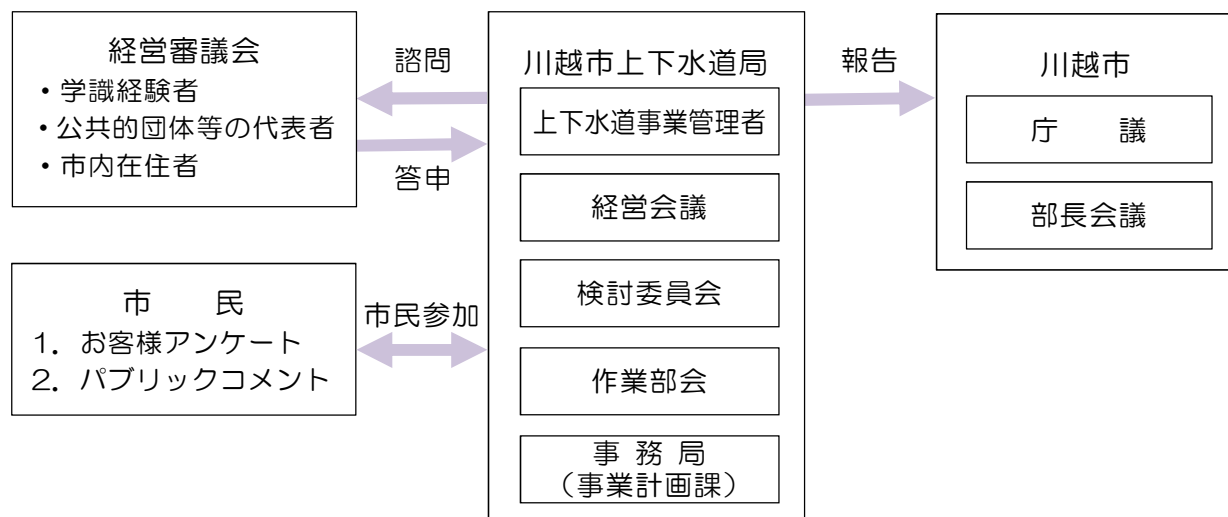


資料

1. 川越市上下水道ビジョン策定経過

(1) 策定体制



(2) 策定経過

年 度	経 過
平成 29 年度	●川越市上下水道ビジョン策定検討委員会設置要綱の制定（6 月） ●上下水道計画に係る運用方針決定（6 月） ●川越市上下水道ビジョン策定検討委員会（6 月～平成 30 年 11 月） [4 回開催] ●川越市上下水道ビジョン策定検討作業部会（7 月～平成 30 年 11 月） [12 回開催] ●川越市上下水道事業経営懇話会（11 月） ●お客様アンケート実施（10 月）
平成 30 年度	●川越市上下水道事業経営審議会（7 月～平成 31 年 1 月）[6 回開催] ・ 諮問（7 月） ・ 答申（1 月） ●意見公募手続（パブリックコメント） ・ 募集期間：8 月 20 日～9 月 18 日 ・ 意見件数：7 件（3 名） ●川越市上下水道ビジョン策定（3 月）

2. 川越市上下水道事業経営審議会

(1) 川越市上下水道ビジョンの策定について（諮問）

川総企発第253号

平成30年7月13日

川越市上下水道事業経営審議会

会 長 青 木 亮 様

川越市上下水道事業管理者 福 田 司

川越市上下水道事業の経営に関する事項について（諮問）

川越市上下水道事業経営審議会条例第1条の規定により、下記の事項について貴審議会の意見を求めます。

記

諮問事項

1. 川越市上下水道ビジョンの策定について

(2) 川越市上下水道ビジョンの策定について（答申）

平成31年1月18日

川越市上下水道事業管理者
福田 司 様川越市上下水道事業経営審議会
会長 青 木 亮

川越市上下水道ビジョンの策定について（答申）

平成30年7月13日付け川総企発第253号をもって諮問のあった標記の件について、下記のとおり答申します。

記

本審議会は、川越市上下水道ビジョン（原案）を基に、延べ6回にわたり審議会を開き、慎重に検討を重ねてまいりました。

その結果、「川越市上下水道ビジョン（最終案）」（別添）は、川越市の上下水道事業が目指すべき将来の方向性を示す計画として相当であると判断します。

上下水道事業管理者におかれましては、この川越市上下水道ビジョンを十分に踏まえ、事業を推進されるよう要望します。

また、公表においては、市民が理解しやすいよう、更に工夫されるよう要望します。

策定後は、各委員の発言の趣旨を尊重しながら進行管理に努め、安定した事業運用がなされるよう要望します。

経営審議会
答申の様子経営審議会
会議の様子

(3) 川越市上下水道事業経営審議会委員名簿

平成30年7月

会 長	青木 亮	東京経済大学 経営学部教授
副会長	佐野 勝正	公認会計士

◆1号委員：学識経験者（10名）

委 員	吉敷 賢一郎	市議会議員
//	伊藤 正子	市議会議員
//	中原 秀文	市議会議員
//	柿田 有一	市議会議員
//	川口 啓介	市議会議員
//	小ノ澤 哲也	市議会議員
//	片野 広隆	市議会議員
//	青木 亮	東京経済大学 経営学部教授
//	佐野 勝正	公認会計士
//	福手 勤	東洋大学 理工学部教授

◆2号委員：市内の公共的団体等の代表者（6名）

委 員	新井 正司	川越市自治会連合会
//	小倉 元司	いるま野農業協同組合
//	鈴木 美智子	川越市女性団体連絡協議会
//	真下 茂	川越東部工業会協同組合
//	町田 明美	川越商工会議所
//	横山 三枝子	かわごえ環境ネット

◆3号委員：市内に住所を有する者であって水道又は公共下水道を使用しているもの

(2名)

委 員	川村 豊二	公募
//	小池 均	公募

敬称略

3. 水道・下水道についてのアンケート

3.1 アンケート調査概要

(1) 調査目的

本アンケート調査は、上下水道を使用しているお客様の意識や動向を把握して、本ビジョンおよび今後の上下水道事業への参考とするため実施しました。

(2) 調査方法

- 調査方法
調査票の郵送配布及び回収
- 調査対象
 - 一般用：市内上下水道使用世帯から 1,000 世帯を無作為に抽出
 - 事業所用：市内上下水道使用事業者から大口使用者 60 件を抽出
- 期間
平成 29 年 10 月 17 日～10 月 31 日
- 回収数
 - 一般用：391 通（回収率：39.1%）
 - 事業所用： 43 通（回収率：71.7%）

※ 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で選択肢を簡略化したものがあります。

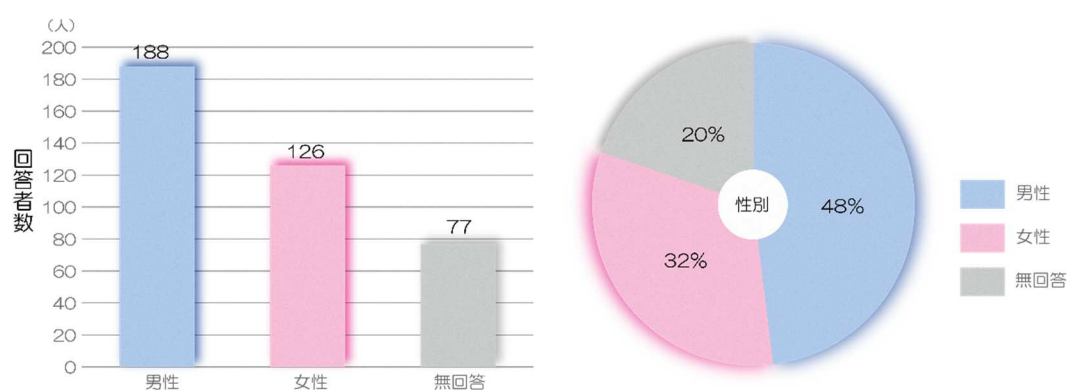
3.2 アンケート調査結果

3.2.1 一般用アンケート

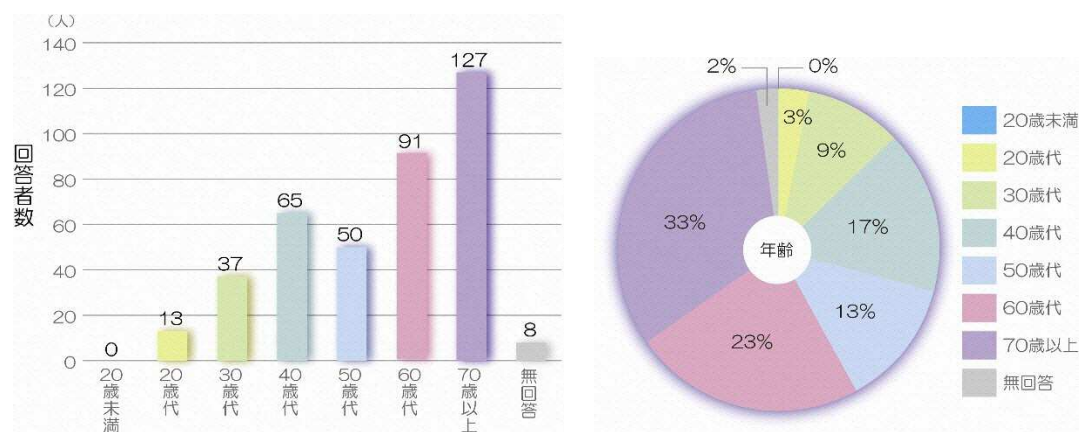
今回のアンケート調査結果は以下の通りです。

<回答者の属性>

(1) 性別



(2) 年齢



今回の調査におきましては、391 名の方から回答をいただきました。

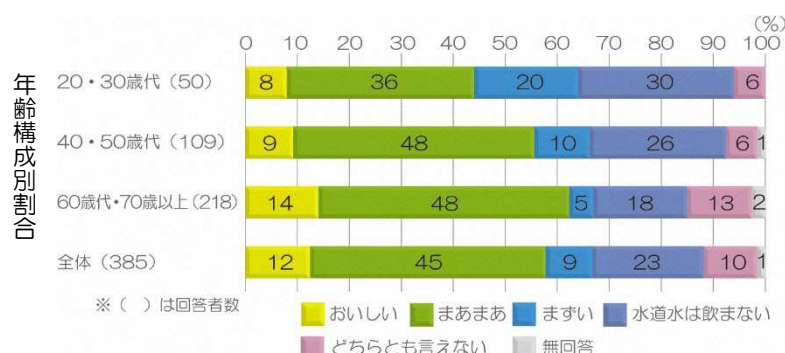
問1 川越市の水道水をおいしいと思いますか。

A. おいしい B. まあまあ C. まずい D. 水道水は飲まない E. どちらとも言えない



「A. おいしい」が45件（12%）、「B. まあまあ」が176件（45%）となっており、合計57%と半数以上の方から川越市の水道水に対し肯定的な評価をいただいています。

※回答分類不可6件を除く。



どの年代においても「B. まあまあ」、「D. 水道水は飲まない」と回答した割合が多くなっています。

※全体に「年齢無回答者」含む。

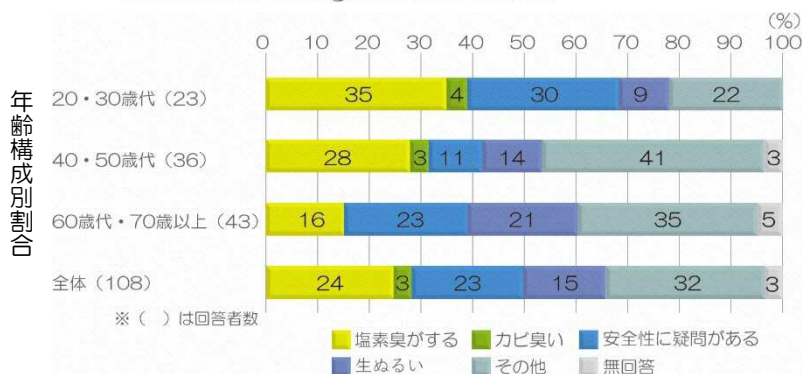
問2 問1でC、Dの回答を選択された方に質問です。C、Dを選択された理由はどれですか。

A. 塩素臭がする B. カビ臭い C. 安全性に疑問がある D. 生ぬるい E. その他



水道水に対し消極的な回答をした方の意見として、「A. 塩素臭がする」が26件（24%）、「C. 安全性に疑問がある」が25件（23%）の順の回答となりました。

※回答分類不可12件を除く



20・30歳代は「A. 塩素臭がする」「C. 安全性に疑問がある」が多いのに対し、40・50歳代と60・70歳以上は「E. その他」が多くなっています。

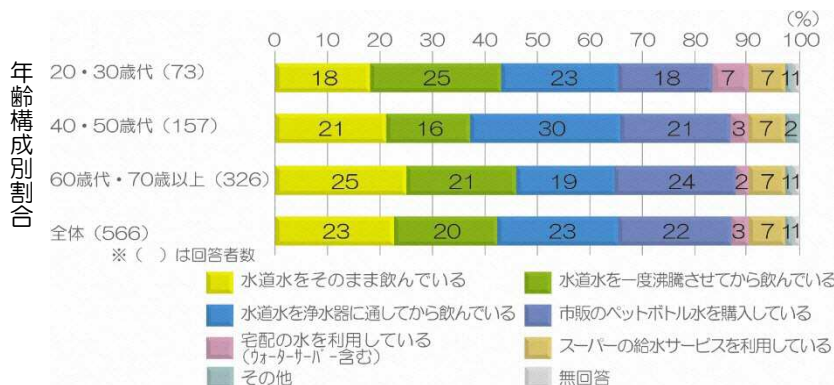
※全体に「年齢無回答者」含む。

問3 飲み水として、どのような水を利用していますか。（複数回答可）

- A. 水道水をそのまま飲んでいる B. 水道水を一度沸騰させてから飲んでいる
C. 水道水を浄水器に通してから飲んでいる D. 市販のペットボトル水を購入している
E. 宅配の水を利用している（ウォーターサーバー含む） F. スーパーの給水サービスを利用している G. その他



「C. 水道水を浄水器に通してから飲んでいる」が最も多く、次いで「A. 水道水をそのまま飲んでいる」となりました。

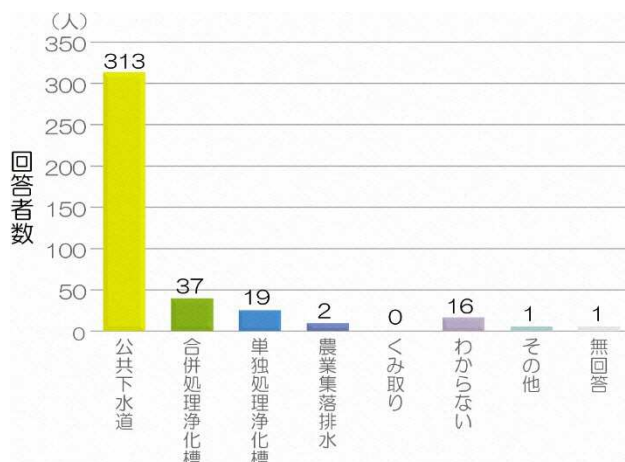


各年代を通じて、水道水を飲んでいる回答の割合が 2/3 程度となっており、大きな違いは見られませんでした。

※全体に「年齢無回答者」含む。

問4 ご自宅の汚水・排水処理方法はどれですか。

- A. 公共下水道 B. 合併処理浄化槽 C. 単独処理浄化槽 D. 農業集落排水 E. くみ取り
F. わからない G. その他



「A. 公共下水道」の回答者が 313 件（80%）と最も多くなっています。

※回答分類不可 2 件を除く。

問5 問4でA(公共下水道)以外の回答を選択された方に質問です。今後、お住まいの地域への公共下水道の接続を希望しますか。

A. 希望する B. 積極的には希望しない C. 希望しない



公共下水道への接続を「A. 希望する」回答者が 41 件 (56%) と、ほぼ半数を占めている一方で、「B. 積極的には希望しない」回答者が全体の約 1/4 に及んでいます。

※問4の無回答1件と回答分類不可1件を除く。

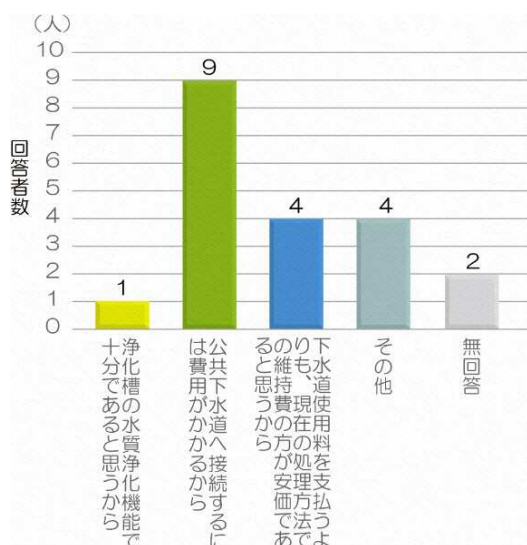


年齢構成別にみると、60・70歳以上は他の年代と比較して「A. 希望する」の回答者が多いということがわかります。

※全体に「年齢無回答者」含む。

問6 問5でA(希望する)以外の回答を選択された方に質問です。公共下水道への接続を希望しない理由はどれですか。

- A. 浄化槽の水質浄化機能で十分であると思うから
 B. 公共下水道へ接続するには費用がかかるから
 C. 下水道使用料を支払うよりも、現在の処理方法での維持費の方が安価であると思うから
 D. その他



「B. 公共下水道へ接続するには費用がかかるから」という回答が最も多くなっています。

※問5の無回答12件と回答分類不可1件を除く。

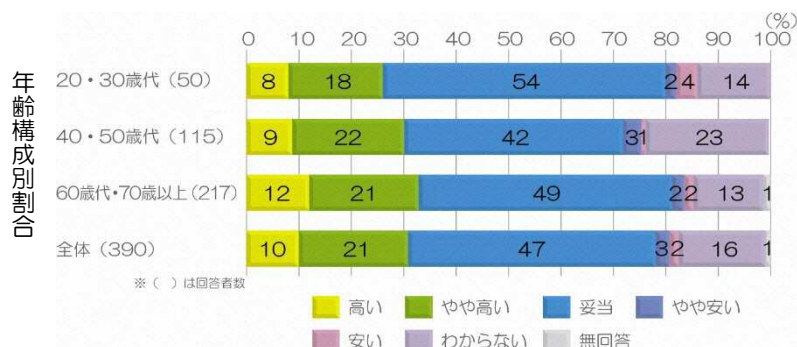
問 7 水道料金・下水道使用料は、他の公共料金と比べて高いと思いますか。それとも安いと思いますか。【参考：川越市の1カ月 20m³(口径 20mm)使用した場合の水道料金 2,246 円、下水道使用料 1,566 円（水道料金等の請求は2カ月毎です）】

A. 高い B. やや高い C. 妥当 D. やや安い E. 安い F. わからない



水道料金・下水道使用料に関しては、「C. 妥当」という回答者が 184 件（47%）と、半数近くであることが示されました。

※回答分類不可 1 件を除く。

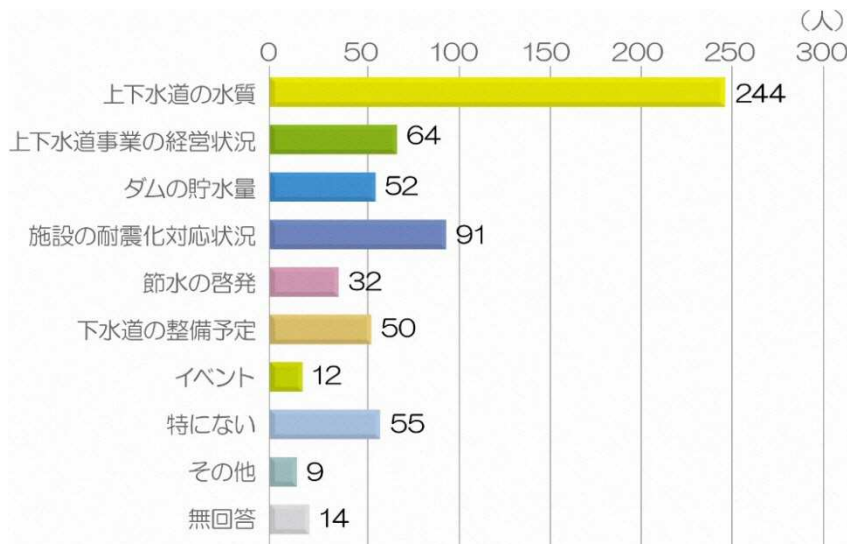


どの年代も「C. 妥当」が最も多く、年齢構成別による回答の大きなばらつきはみられませんでした。

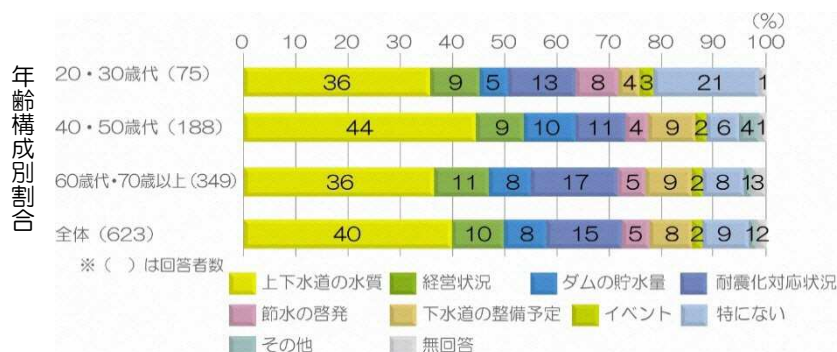
※全体に「年齢無回答者」含む。

問8 水道・下水道に関してどのような情報を知りたいと思いますか。（複数回答可）

- A. 水道及び下水の水質 B. 上下水道事業の経営状況 C. ダムの貯水量
D. 水道・下水道施設（浄水場、ポンプ場、管路）の耐震化の対応状況 E. 節水の啓発
F. 下水道の整備予定 G. 水道週間などのイベント H. 特にない I. その他



「A. 水道及び下水の水質」の回答数が 244 と最も多く、次いで「D. 水道・下水道施設（浄水場、ポンプ場、管路）の耐震化の対応状況」が 91 件となりました。

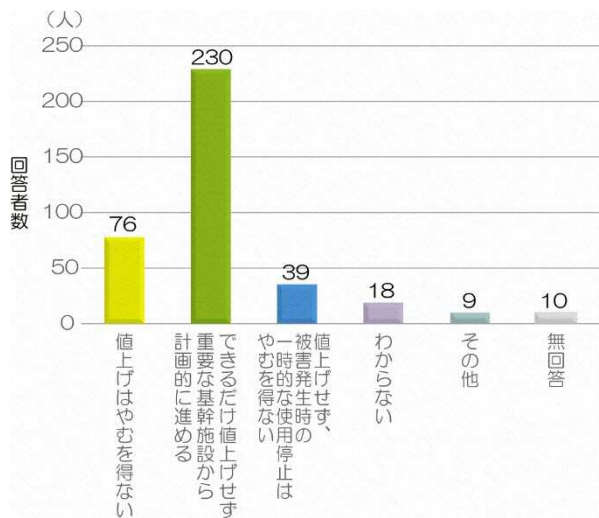


年齢構成別に多少のばらつきは見られますが、どの年代でも「A. 水道及び下水の水質」の回答が多いことがわかりました。

※全体に「年齢無回答者」含む。

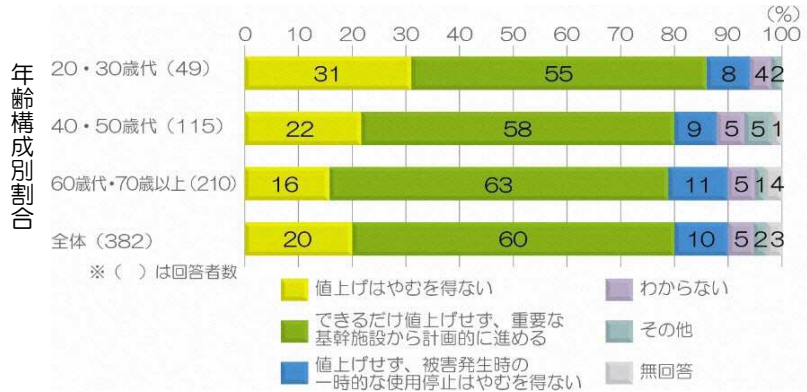
問9 地震などの災害時でも、安定した水の供給や污水处理を行うようにするためには多額の費用がかかります。災害対策について、あなたの考えに近いものはどれですか。

- A. 万が一に備え、着実に対策を進める必要があり、水道料金等の値上げはやむを得ない
- B. できるだけ水道料金等は値上げせず、重要な基幹施設から計画的に対策すべき
- C. 水道料金等の値上げは行わず、被害が出た場合の一時的な使用停止はやむを得ない
- D. わからない
- E. その他



「B. できるだけ水道料金等は値上げせず、重要な基幹施設から計画的に対策すべき」という回答が230件（60%）と最も多くなりました。

※回答分類不可9件を除く。

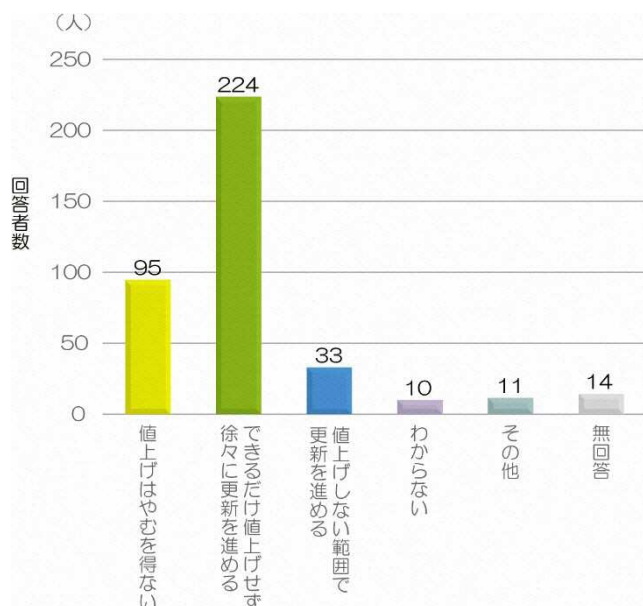


水道料金等の値上げはやむを得ないとの回答割合が、年代が上がるほど減る傾向にあります。

※全体に「年齢無回答者」含む。

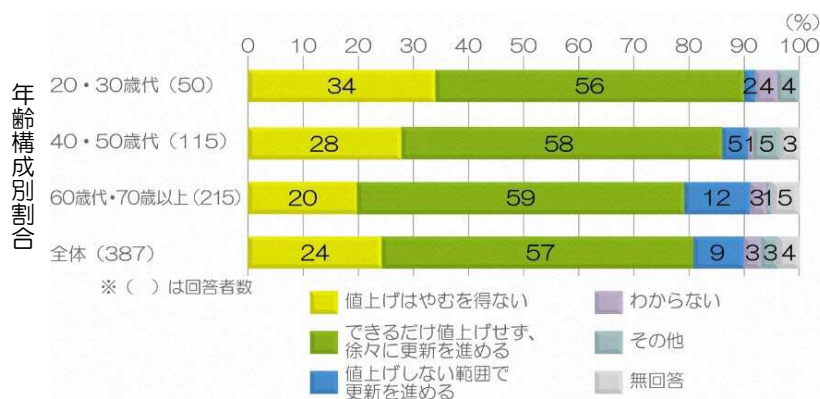
問 10 現在、川越市の水道・下水道施設は老朽化が進み、今後漏水・断水や道路陥没等が生じる恐れもあるため、計画的に更新する必要があります。あなたの考えに近いものはどれですか。

- A. 漏水・断水や道路陥没等を防ぐため、早急に更新を進めるべきであり、水道料金等の値上げもやむを得ない
 B. できるだけ水道料金等は値上げせず、徐々に更新を進める
 C. 一時的な漏水・断水や道路陥没等の発生はやむを得ず、水道料金等は値上げしない範囲で更新を進める
 D. わからない
 E. その他



「B. できるだけ水道料金等は値上げせず、徐々に更新を進める」が224件（57%）と最も多くなりました。

※回答分類不可4件を除く。



問9と同様に、「A. 値上げはやむを得ない」との回答割合が、年代が上がるほど減少します。

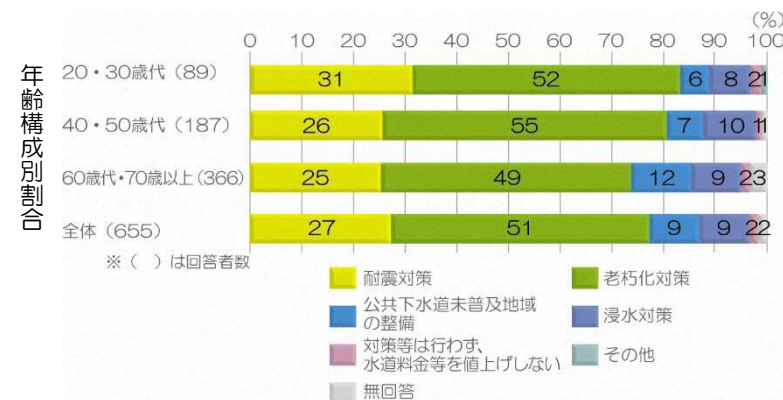
※全体に「年齢無回答者」含む。

問 11 課題となっている以下のような事業を行うためには多額の費用がかかるため、優先度の高いものから取り組む必要があります。あなたが優先して実施すべきと思うものはどれですか。（複数回答可）

- A. 耐震対策 B. 老朽化対策 C. 公共下水道未普及地域の整備 D. 浸水対策
E. 対策等は行わず、水道料金等を値上げしない F. その他



「B. 老朽化対策」の回答数が332件と最も多く、次いで「A. 耐震対策」が174件となりました。



年齢構成別による回答選択の大きなばらつきは見られませんでした。

※全体に「年齢無回答者」含む。

問 12 上下水道局が発行している「上下水道局だより」(8月と2月に発行)を読んだことがありますか。（広報川越に年2回折込でお知らせしています。）

- A. 内容もよく読んでいる B. ざっと目を通した C. 見たことはあるが読んでいない
D. 見たことがない



「B. ざっと目を通した」が162件（42%）と最も高く、次いで「C. 見たことはあるが読んでいない」が95件（24%）となりました。

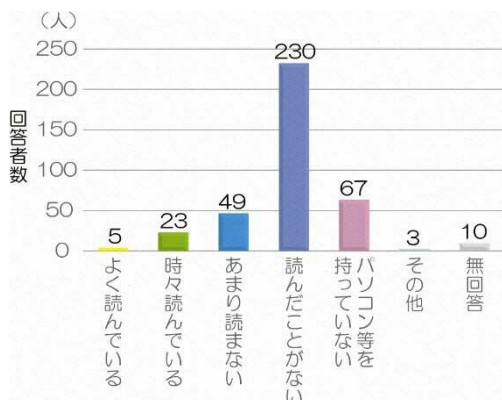


20・30歳代は「D. 見たことがない」の回答者が最も多く、40歳以上は「B. ざっと目を通した」の回答者が最も多い結果となりました。

※全体に「年齢無回答者」含む。

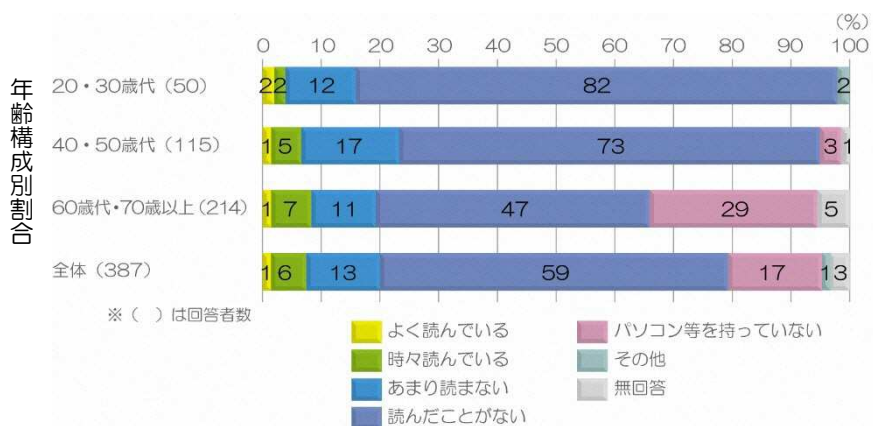
問 13 上下水道局では、ホームページに上下水道関連の情報を掲載しています。この情報を読んでいますか。

- A. よく読んでいる B. 時々読んでいる C. あまり読まない D. 読んだことがない
E. パソコン等を持っていない F. その他



「D. 読んだことがない」が 230 件（59%）と最も高く、次いで「E. パソコン等を持っていない」が 67 件（17%）となりました。

※回答分類不可 4 件を除く。



どの年代も「D. 読んだことがない」に最も多く回答しています。また、60・70 歳以上については、29%が「E. パソコン等を持っていない」と回答しています。

※全体に「年齢無回答者」含む。

3.2.2 事業所用アンケート

問1 日頃、あなたの事業所で取り組んでいる節水対策はありますか。（複数回答可）

- A. 節水型設備の導入（業務用の機械など）
- B. 節水型設備の導入（節水型トイレなど、業務用以外のもの）
- C. 地下水・雨水の利用
- D. 使用量の管理
- E. 従業員への啓発
- F. 対策はしていない
- G. その他



「D.使用量の管理」が最も多く、「E.従業員への啓発」がほぼ同じ件数となりました。このことから、従業員が対応できる範囲で節水対策に取り組んでいることがわかります。

問2 今後、取り組みたいと思っている節水対策はありますか。（複数回答可）

- A. 節水型設備の導入（業務用の機械など）
- B. 節水型設備の導入（節水型トイレなど、業務用以外のもの）
- C. 地下水・雨水の利用
- D. 使用量の管理
- E. 従業員への啓発
- F. 特にない
- G. その他



「F.特にない」が15件と最も多く、次いで「E.従業員への啓発」が12件となりました。

問3 あなたの事業所では、災害に備え、飲料水の備蓄を行っていますか。

A. 備蓄している B. 備蓄していない



「A.備蓄している」が72%、「B.備蓄していない」が28%となりました。約7割の事業所が災害に備えて飲料水の備蓄をしていることがわかります。

問4 問3でA(備蓄している)の回答を選択された事業所に質問です。飲料水をどのように備蓄していますか。

A. ペットボトル B. 水の缶詰 C. ポリタンク D. その他

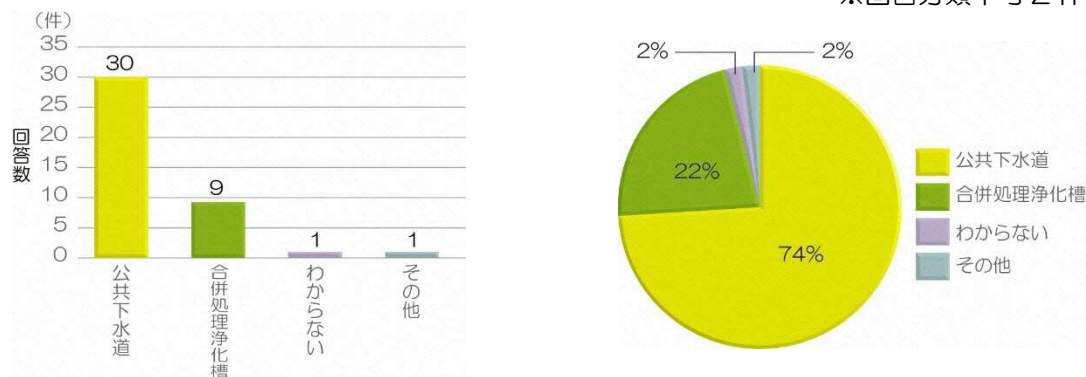


備蓄にはペットボトル、もしくはポリタンクを用いていることがわかります。「A.ペットボトル」に関しては、26件（約7割）の事業所が、「C.ポリタンク」に関しては2件（1割未満）の事業所が備蓄していることがわかりました。

問5 あなたの事業所の污水排水処理方法はどれですか。

A. 公共下水道 B. 合併処理浄化槽 C. わからない D. その他

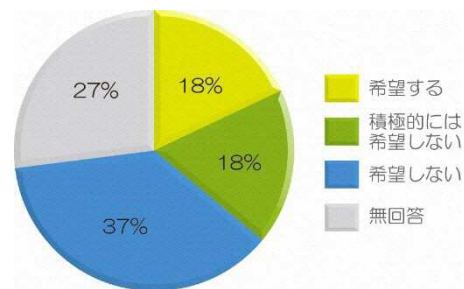
※回答分類不可2件を除く



「A.公共下水道」の回答者が74%と最も高く、続いて「B.合併処理浄化槽」が22%となっています。これは、個人を対象としたお客様アンケートと同様の傾向にあることが示されています。

問 6 問5でA(公共下水道)以外の回答を選択された事業所に質問です。今後、事業所の地域への公共下水道の接続を希望しますか。

A. 希望する B. 積極的には希望しない C. 希望しない



公共下水道への接続を「A.希望する」回答者が18%、「B.積極的には希望しない」が18%、「C.希望しない」が37%となり、希望しない方の割合が多い結果となりました。

問7 問6でBまたはCの回答を選択された事業所に質問です。公共下水道への接続を希望しない理由は何ですか。

- A. 浄化槽の水質浄化機能で十分であると思うから
- B. 公共下水道へ接続するには費用がかかるから
- C. 下水道使用料を支払うよりも、現在の処理方法での維持費の方が安価であると思うから
- D. その他



「A.浄化槽の水質浄化機能で十分であると思うから」という回答が最も多く、現行の処理方式に満足していることがわかります。

問8 川越市の水道事業が行っている取組みについて、優先的に実施すべきと思う取組みはどれですか。次の中から2つまで選んでください。（1つでもよいです）

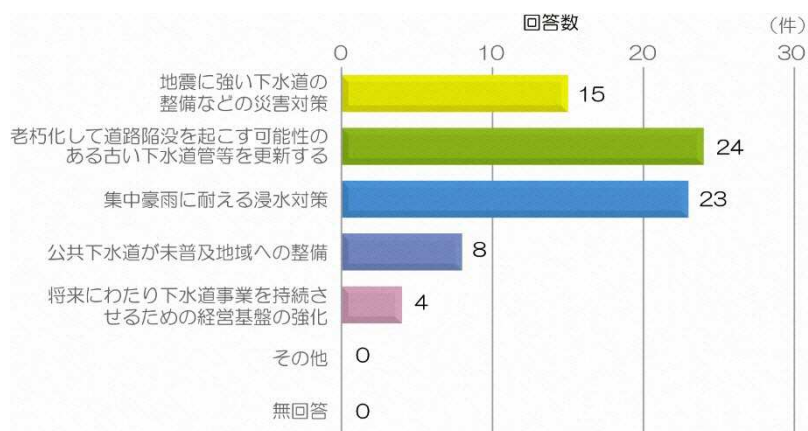
- A. 地震に強い水道管の整備などの災害対策
- B. 老朽化して漏水・断水を起こす可能性のある古い水道管を更新する取組み
- C. 水質検査の強化など、水道水の安全性を確保していくための取組み
- D. 将来にわたり安定して水道水を供給するための経営基盤の強化
- E. その他



「B. 老朽化して漏水・断水を起こす可能性のある古い水道管を更新する取組み」の回答が33件と最も多く、次いで「A. 地震に強い水道管の整備などの災害対策」が22件となりました。

問9 川越市の下水道事業が行っている取組みについて、優先的に実施すべきと思う取組みはどれですか。次の中から2つまで選んでください。（1つでもよいです）

- A. 地震に強い下水道の整備などの災害対策
- B. 老朽化して道路陥没を起こす可能性のある古い下水道管等を更新する取組み
- C. 集中豪雨に耐える浸水対策
- D. 公共下水道が普及されていない地域への整備
- E. 将来にわたり下水道事業を持続させるための経営基盤の強化
- F. その他

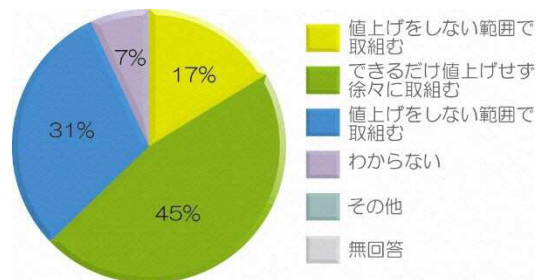
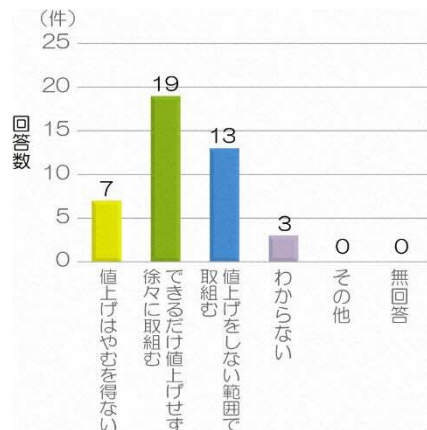


「B. 老朽化して道路陥没を起こす可能性のある古い下水道管等を更新する取組み」が24件と最も多く、次いで「C. 集中豪雨に耐える浸水対策」が23件となりました。

問 10 問8、問9の取組みを行う上で、あなたの事業所の考えに近いものはどれですか。

- A. 着実に取組みを実施するため、水道料金・下水道使用料の値上げもやむを得ない
 B. できるだけ水道料金・下水道使用料は値上げせず徐々に取組む
 C. 水道料金・下水道使用料の値上げをしない範囲で取組む
 D. わからない
 E. その他

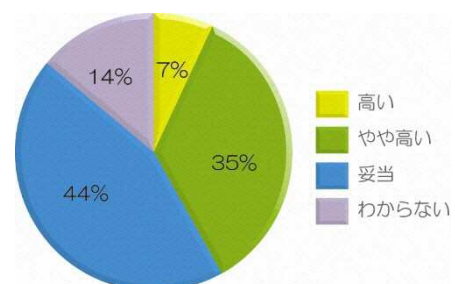
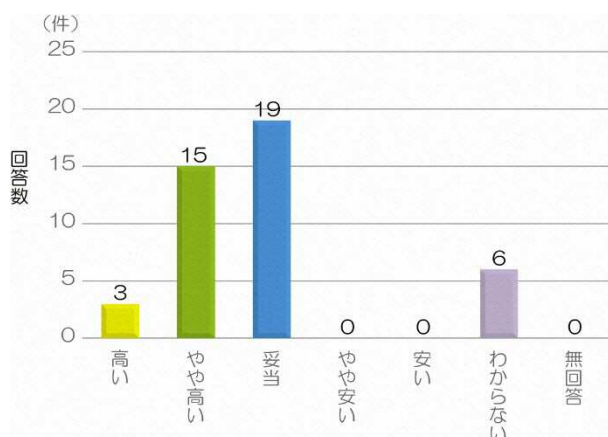
※回答分類不可 1 件を除く



「B.できるだけ水道料金・下水道使用料は値上げせず徐々に取組む」が 19 件と最も多く、次いで「C.水道料金・下水道使用料の値上げをしない範囲で取組む」が 13 件となりました。

問 11 水道料金・下水道使用料は、他の公共料金と比べて高いと思いますか。それとも安いと思いますか。【参考：川越市の 1 カ月 2,000m³(口径 25mm)使用した場合の水道料金 732,942 円、下水道使用料 394,308 円（水道料金等の請求は 2 カ月毎です）】

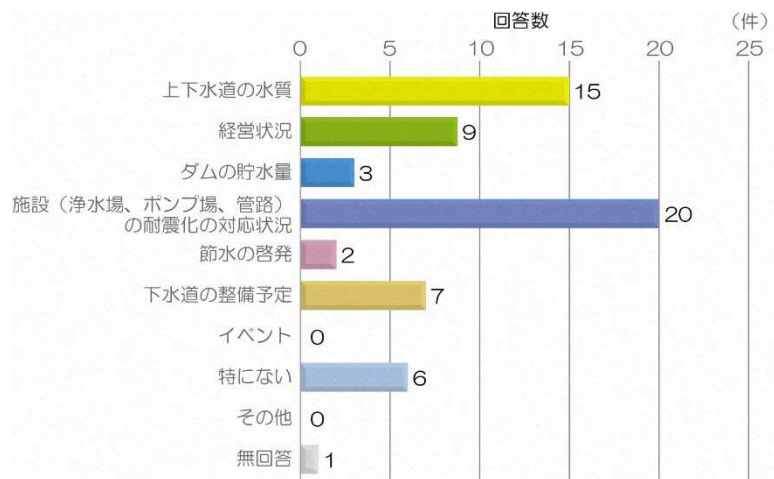
- A. 高い B. やや高い C. 妥当 D. やや安い E. 安い F. わからない



水道料金・下水道使用料に関しては、「C.妥当」という回答者が 44%と、半数近くであることが示されました。次いで「B.やや高い」、「F.わからない」という回答の順となりました。

問12 水道・下水道に関してどのような情報を知りたいと思いますか。(複数回答可)

- A. 水道及び下水の水質 B. 上下水道事業の経営状況 C. ダムの貯水量
 D. 水道・下水道施設（浄水場、ポンプ場、管路）の耐震化の対応状況 E. 節水の啓発
 F. 下水道の整備予定 G. 水道週間・下水道の日などのイベント H. 特にない
 I. その他



「D.水道・下水道施設（浄水場、ポンプ場、管路）の耐震化の対応状況」の回答数が20件と最も多く、次いで「A.水道及び下水の水質」が15件となりました。また、「B.上下水道事業の経営状況」も9件と比較的多い回答結果となりました。

4. 川越市上下水道ビジョン 評価指標一覧

施策方針	評価指標	実績値 2017年度	中間目標 2023年度	目 標 2028年度
安 全	平均残留塩素濃度（末端） （mg/L）	0.5	0.1以上0.45以下	0.1以上0.4以下
	点検・検査の受検率（％）	2.9	3.2	3.5
	平均自己水源利用量 （m ³ /日）	12,267	15,500	15,500
	重点対策地区の 対策済ブロック数（箇所）	0	1	2
循 環	家庭雨水貯留槽及び 浸透ます設置数（箇所）	788	1,004	1,090
	上下水道局のエネルギー起源 CO ₂ 排出量（t-CO ₂ ）	3,793	3,546以下	3,546以下
	上下水道局の自動車による NO _x ・PM及びCO ₂ 排出量 （NO _x kg,PMkg,CO ₂ t）	NO _x 79.65 PM 1.77 CO ₂ 38.49	NO _x 75.00以下 PM 1.50以下 CO ₂ 30.00以下	NO _x 75.00以下 PM 1.50以下 CO ₂ 30.00以下
	配水量1m ³ あたりの消費エネルギー （MJ/m ³ ）	1.63	1.62	1.61
	下水排除基準超過率 （％）	4.0	0	— （2024年度より削除）
	人口普及率（％）	85.6	86.0	86.4 （2025年度）
	下水道接続率（％）	97.8	99.0	100
強 靱	有収率（水道） （％）	94.6	94.8	95.0
	管路の更新率（水道） （％）	0.97	1.10	1.25
	長寿命化管きょ延長（下水道） （km）	31.7	34.2	36.7
	管路施設の点検・調査延長 （下水道）（km：累計）	0	250	401
	設備点検実施率（水道） （％）	89.9	87.0以上	87.0以上
	設備更新箇所数（下水道） （箇所：5箇年累計）	74	85	100
	重要施設配水管耐震化率 （水道）（％）	15.8	23.0	30.0
	配水管の耐震化率（水道） （％）	20.1	26.6	32.6
	管きょ耐震化率（下水道） （％）	14.5	15.9	22.8
	災害対策訓練実施回数 （回／年）	1	1以上	1以上
持 続	広域化検討会議実施回数 （回／年）	2	3以上	3以上
	新たな技術に関する検討を行う （件／年）	0	1以上	1以上
	内部研修実施時間 （時間／人）	2.5	3.0	3.0
	有収率（下水道） （％）	71.3	76.0	80.0
	情報提供、啓発活動の回数 （回／年）	10	13以上	15以上

備 考
指定の給水栓で毎日測定されている残留塩素濃度の年間平均値。[残留塩素濃度合計／残留塩素測定回数]
小規模貯水槽水道の点検・検査の受検率。[貯水槽水道点検・検査件数／貯水槽水道数×100]
自己水源（地下水）の1日当たりの平均利用量。
「川越市雨水管理総合計画」により浸水対策の重点対策地区として指定した区域のうち、雨水施設の整備などの対策を行ったブロック数。
「川越市雨水対策施設設置補助金交付要綱」により、雨水の一時的な流出抑制や有効利用を目的に設置した小型貯留槽および浸透ますの設置箇所数。
上下水道事業において発生する二酸化炭素排出量。浄水場やポンプの運転管理、工事や自動車における電力・燃料消費が主な排出源。
上下水道事業において用いる自動車から発生する環境負荷。
配水量1m ³ 当りの水道事業すべての施設、事業所で使用したエネルギー量の割合。 [エネルギー消費量／年間配水量]
公共下水道を使用している特定事業場に対して、その下水が下水道法における水質基準を超過した特定事業場の割合。
行政人口に対して、下水道により処理することが可能な人口の割合。
下水道により処理することが可能な世帯に対して、下水道を利用している世帯の割合。 [下水道接続世帯数／下水道処理可能世帯数×100]
水道の総配水量に対して、料金の徴収対象となった水量（有収水量）の割合。
水道の管路全体の延長に対して、1年の間に更新を行った延長の割合。
下水道管路において修繕や改築などの長寿命化対策を行った管路の延長。
下水道管路において点検や調査を行った管路の延長。
上水道の浄水場やポンプ施設に設置されている設備に対して点検を行った割合。 [点検機器数／機械・電気・計装機器の合計数]
下水道マンホール形式ポンプ場の主要な設備の更新箇所数。
防災拠点や医療施設等に給水を行っている重要施設配水管延長に対する耐震化対策を実施した延長の割合。 [耐震化済延長／全重要施設配水管延長×100]
すべての配水管のうち、耐震化対策を実施した割合。[耐震化済延長／配水管延長×100]
すべての管きょのうち、耐震化対策を実施した割合。[耐震化済延長／下水道管延長×100]
地震などの大規模災害に備えて災害対策訓練を実施した回数。
広域化や共同化の必要性や導入について、県や近隣事業者も含めた検討会議を実施した回数。
新たな技術の導入についての検討を行った回数。
必要な知識や技術の習得を目指した、内部研修の実施時間数。
汚水の処理量に対して、使用料の徴収対象となった水量（有収水量）の割合。
上下水道事業における情報提供、啓発活動の実施回数。

5. 用語の解説

【あ 行】

IoT

Internet of Things（モノのインターネット）の略。

あらゆるモノをインターネットに接続し、モノから得た情報を収集、分析することにより様々なサービスや製品に活用する技術。

アセットマネジメント

直訳すると資産管理の効率的な運用。

上下水道事業においては、中長期的な視点で将来の資産健全度や財政収支を見通し、重要度・優先度を踏まえた投資の平準化を図ることにより、効果的・効率的に資産を管理運営する、体系化された実践活動。

荒川右岸流域下水道

県が事業主体の荒川右岸流域 10 市 3 町（川越市・入間市・狭山市・ふじみ野市・富士見市・所沢市・志木市・新座市・朝霞市・和光市・吉見町・川島町・三芳町）を処理区域とする下水道。

荒川右岸流域関連川越公共下水道事業計画

荒川右岸流域下水道に流入する川越市管理の下水道（流域関連公共下水道）について、全体計画に定められた施設のうち、5～7 年間で実施する予定の施設の整備内容等を定めた計画。

下水道施設の設置、点検の頻度・方法を示すとともに、機能維持に関する中長期的な方針等を示している。

一般会計

国、自治体における会計のうち、特別会計を除くすべての歳入歳出。

一般会計と分けて特別に支出と収入を会計するものを特別会計という。

水道事業や下水道事業は、地方公共団体が経営する公営企業として規定されるため、市の一般会計とは別に独立した川越市水道事業会計及び川越市公共下水道事業会計を設けて財政運営を行っている。

AI

artificial intelligence（人工知能）の略。

言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターが行う技術。

NOx

一酸化窒素（NO）、二酸化窒素（NO₂）などの燃焼によって発生する窒素酸化物の総称。

主な発生源は、自動車の排気ガスであり、光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされている。

塩化ビニル管

塩化ビニル樹脂を原料として製作された管材。

上水道・下水道で共に使用されている。

【か 行】

可とう性

外力に対して、たわみ変形する性質。

川越市雨水管理総合計画

下水道による浸水対策を実施するうえで、当面・中期・長期と段階を分けて、浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的な事項を定めた計画。

川越市環境マネジメントシステム

公共施設の全体目標として、電力使用量やガソリンなどの燃料使用量、コピー用紙購入量などに含まれる資源の削減を挙げ、これらの達成に向けた取組体制や手続きなどの仕組み。

本市は、環境に関する取組の基本理念、基本方針として「川越市環境方針」を定め、市の事業活動が環境に与える影響を継続的に改善している。

川越市下水道総合地震対策計画

「川越市地域防災計画」に基づき、緊急輸送道路の早期復旧や軌道下及び河川横断管路の流下機能の確保等の対策を定めた、計画期間 5 年間（2017 年度～2021 年度）の計画。

川越市合流式下水道緊急改善計画

合流式下水道において、一定量以上の降雨時に未処理下水の一部がそのまま放流されることに対し、公衆衛生・水質保全・景観上の観点から、放流回数の軽減や夾雑物の流出抑制などの改善策を示した計画。

川越市上下水道局震災等防災計画

「川越市地域防災計画」に準拠して、地震などの災害時における上下水道施設の迅速な機能確保や、応急給水、復旧作業などの活動を詳細かつ実践的な内容として策定した計画。

川越市上下水道事業経営審議会

本市の水道事業及び公共下水道事業の経営に関する事項について審議する機関。

委嘱期間2年の委員（学識経験者・市内の公共的団体等の代表者・市内在住の水道又は公共下水道を使用している方の代表者）で構成されている。

川越市上下水道事業中期経営計画

上下水道の整備、適正な維持管理及び経営基盤の強化を目的とした、計画期間 5 年間（2015 年度～2019 年度）の基本的な計画。

川越市地域防災計画

本市において発生のある可能性がある地震災害、風水害及び大規模事故災害に対応することを目標として策定された計画。

川越市地球温暖化対策実行計画

地球温暖化の防止に向けて総合的かつ計画的に対策を推進していくために、本市が目指す温室効果ガス排出量の削減目標と、実現に向けた市の施策、市民・事業者の具体的な取組などを定めた計画。

川越市内水ハザードマップ

自然災害による浸水被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路といった防災関係施設の位置などを表示した地図。

幹 線

汚水や雨水の排水を行ううえで、基幹となる比較的口径の大きい管路。

基幹管路

水道事業において基幹となる管路。

導水管、送水管、配水本管が該当する。

○導水管・・・水道施設のうち、河川や井戸などの取水施設から得た水を浄水施設まで導く管。

○送水管・・・水道施設のうち、浄水施設から配水池までなど、施設間で送水を行う管。

○配水本管・・・道路下に網目状に配置された配水管網のうち、主要な管路で、給水管への分岐がない管。本市においては口径 400 mm以上の管が該当する。また、配水本管から受けた浄水を給水管に分岐する管を配水支管という。

給水人口

給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口。

給水区域外からの通勤者や観光客は給水人口には含まれない。

給水栓

給水管の末端に取り付けられ、水を出したり止めたりする給水用具。
蛇口等のこと。

業務継続計画（BCP）

business continuity plan の略。

災害発生時など、人材や資材に制約がある状況下でも適切に業務を進めるために備えておく計画。

被害想定や、優先すべき業務の整理、人員の配置案などをあらかじめ定めておく。

夾雑物きょうざつぶつ

下水に含まれる固形物で、管きょ内の堆積物の原因となる物質。

雨水吐き室やポンプ場の放流先では、雨天時にビニル、合成樹脂、ゴム、皮革類、草木、わら類などが散乱し、景観上の問題が生じる場合がある。

緊急遮断弁

地震などの異常を感知すると、自動的に緊急閉止できる機能を持った弁。

遮断弁が閉止することで、配水池からの水道水の流出を防ぎ、災害時の生活用水を確保できる。

緊急輸送路

災害時における円滑な避難、救急・消防活動の実施、避難者への緊急物資の輸送などを行うために、県や市が指定している道路。

経営戦略

総務省が策定を求めている「投資・財政計画」を中心とする中長期的な経営の基本計画。
計画の策定により、公営企業の経営基盤の強化を図ることを目的としている。

県水の直送方式

配水池を介さず直接県水の圧力により給水する方式。

配水池の設備更新費用の削減、電力料金などの経費縮減及び二酸化炭素排出量の削減が期待される。

建設副産物

建設発生土など建設工事に伴い副次的に得られる物品の総称。

具体的には、建設現場に持ち込んで加工した資材の残りや、現場内で発生した物の中で工事中あるいは工事終了後その現場内では使用の見込みがないものをいう。

公営企業（地方公営企業）

地方公共団体が、住民の福祉の増進を目的として設置し、経営する企業。

一般行政事務に要する経費が租税によって賄われるのに対し、公営企業は、提供するサービスの対価である料金収入等によって維持される。

合流式下水道

汚水と雨水を同じ管きょ系統で排除する下水の排除方式。

汚水管、雨水管を布設する分流式下水道に比べ、管きょが1本となり建設費が安くなることや、ガス管などの他の地下埋設物との競合が少なくなり施工が比較的容易になるなどのメリットがある。

戸別音聴調査

音聴棒を各給水使用者の水道メーターや止水栓などに直接接触させて、漏水音の有無を確認する調査方法。

【さ 行】

残留塩素

水道水の中に、消毒効果をもつ有効塩素として消失せずに残留している塩素化合物。

水道法では給水栓における水が、遊離残留塩素を 0.1mg/L（結合残留塩素の場合は 0.4mg/L）以上保持することとされている。

G I S

Geographic Information System（地理情報システム）の略。

地理的位置情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にするシステム。

収益的収支

地方公営企業の経常的企業活動に伴い、年度内に発生が見込まれるすべての収益（料金収入など）とそれに対応するすべての費用（減価償却費のように現金支出を伴わない費用を含む）。

収益的収支に対し、施設の整備や企業債の償還元金等の支出と、これに要する資金としての企業債や工事負担金などの収入を資産形成に係る収支として資本的収支という。

受益者負担の原則

公共サービスなどの事業によって利益を受ける人が、利益の度合いに応じて、その事業にかかる費用を負担すべきであるという考え方。

重要施設配水管

「川越市地域防災計画」に位置付けられた地域防災拠点、避難場所、救急医療施設等へ配水する管、及び一部の緊急輸送道路に埋設されている管。

優先して耐震化工事を実施する。

処理人口（汚水）

生活排水を公共下水道や合併処理浄化槽、農業集落排水等の手法により適切に処理することが可能な人口。

本編では、公共下水道による処理可能人口として扱っている。

新下水道ビジョン

国土交通省によって策定された、下水道の使命、長期ビジョン、及び長期ビジョンを実現するための当面の目標と具体的な施策などが示された計画。

震災等防災対策行動マニュアル

「川越市地域防災計画」などに基づいて作成された、地震などの災害発生時に必要な対応手順などを定めたもの。

新水道ビジョン

厚生労働省によって策定された、水道を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、50年後、100年後の将来を見据えた水道の理想像の明示や、取組の目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担が示された計画。

浸透施設（雨水）

雨水を、地表あるいは地下の浅い所から地中に浸透させる施設。

浸透ます、道路浸透ます、浸透トレンチ、浸透側溝、透水性舗装、空隙貯留浸透施設のこと。

水洗化人口

生活排水を公共下水道や合併処理浄化槽、農業集落排水等の手法により適切に処理している人口。

本編では、公共下水道によって処理している人口として扱っている。

ストックマネジメント

上下水道事業の役割を踏まえて、持続可能な事業の実施を図るために、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握・評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら、上下水道施設を計画的かつ効率的に管理する手法。

スマートメーター

水道使用量を測定し電子データとして遠隔地に送ることができるメーター。

従来の機械式メーターとは異なり、検針員によるメーターの読み取り作業が不要になることから、人件費や業務負担の軽減になるだけでなく、水道使用量の見える化により家庭での節水の促進や高齢者見守りサービスへの適用も期待される。

生活排水処理基本計画

公共用水域の水質改善と環境保全のため、行政区域内の生活排水処理を公共下水道、農業集落排水及び合併処理浄化槽で整備する区域に分けて、2025 年度までにそれぞれの整備を完了させることを目標として、「川越市一般廃棄物処理基本計画」の中で「生活排水処理基本計画」編として策定された計画。

生活用水量

一般家庭で使用される水（生活用水）の量。

主にトイレ、風呂、炊事、洗濯で使われる水が該当する。

【た 行】

第四次川越市総合計画

市民と行政にとって、まちづくりを進める指針となるものであり、目指すべき都市像を描き、その実現に向けた目標や必要な方策を定めた、計画期間 10 年間（2016 年度～2025 年度）の計画。

ダクタイル鋳鉄管

鋳鉄を原料として製作された管材。

腐食しにくいことや、強靱性に優れた性質があり、特に水道管として多く使用されている。

【な 行】

内 水

堤防の内側（市街地側）にある水路、排水路、側溝などの水。

河川の水は、外水という。

農業集落排水（事業）

農業振興地域内の農業集落の生活環境の向上・農業用水の水質保全などを目的として、各家庭のトイレ・台所・風呂などから出た汚水を集め、きれいにして川に戻す施設を整備する事業。

【は 行】

配水区域のブロック化

配水区域を適当な広さに分割して管理すること。

ブロック化の利点としては、水圧の均等化、現況把握の容易性、平常時の配水管理と維持管理の向上、非常時対応の向上などが挙げられる。

配水用ポリエチレン管

ポリエチレン樹脂を原料として製作された管材。

柔軟で軽く、耐食性に優れている。

吐 口

分流雨水管や合流式下水道管において、公共用水域に対して雨水や排水を排出するための施設。

BOD

biochemical oxygen demand（生物化学的酸素要求量）の略。

水中の微生物が 20℃、5 日間で有機物を分解するときに消費する酸素の量。

数値が大きくなるほど汚濁していることを示しており、水質汚濁の一般指標として用いられる。

P M

particulate matter（粒子状物質）の略。

マイクロメートル（ μm ）の大きさの固体や液体の微粒子。

P P P

Public-Private-Partnership（官民連携）の略。

公的機関と民間事業者がパートナーとなり協力して公共事業を行う手法。

不明水

下水道管へ浸入している雨水や地下水等。

分流式下水道

汚水と雨水を別々の管きょ系統で排除する下水の排除方式。

汚水は雨水と分離して排除され下水処理施設で処理されるため、公共用水域への汚水の流出がなくなることや、施設が小型化できるなどのメリットがある。

弁栓（類）・弁室

配管を流れる水の流れを制御する装置（弁）や、配管の途中でそれより先に行くのを止める装置（栓）で、バルブ、コック、キャップ、プラグなどの総称。

弁栓類を収納するため道路下地中に設置するバルブボックスを弁室・弁きょうという。

包括的民間委託

地方公共団体などが必要な監督権を留保したうえで、その営業業務を包括的に民間企業などに委託すること。

本市は、水道料金及び下水道使用料の収納に係る業務と電子計算処理業務を委託している。

【ま 行】

マンホールカード

マンホール蓋の写真とデザインに関する情報等を掲載したカード型の下水道広報用パンフレット。

全国統一規格のコレクションカードであり、本市は 2017（平成 29）年 4 月から配布している。

マンホールトイレ

災害時用として、下水道管路にあるマンホールの上に設置する簡易なトイレ。

水安全計画

水道の水質に影響を及ぼす可能性がある全ての危害を抽出・特定し、それらを継続的に監視・制御することにより、安全な水の供給を確実にするシステムづくりを目指した計画。

安全性の向上、維持管理の効率化、管理の一元化・統合化などが期待される。

【や 行】

有収率

水道の総配水量や、汚水の処理量に対して、料金・使用料の徴収対象となった水量（有収水量）の割合。

【ら 行】

ライフサイクルコスト

企画・設計・施工・運用・維持管理・補修・改造・解体・廃棄に至るまでに必要なトータルコスト。

初期建設費であるイニシャルコストと、エネルギー費、保全費、改修・更新費などのランニングコストにより構成される。

老朽管更新計画

布設後長期間が経過し、不具合が生じてきた管路に対して、その機能を回復するための布設替または更生を行う計画。



かし

山吹

雁(かり)

平成31年3月
(令和6年10月修正)



川越市上下水道局

〒350-0054 埼玉県川越市三久保町 20 番地 10
電 話：049-223-3061 (代表)
ファクス：049-223-3078